

2017年1月17日(スイス・ダボス 現地時間)

「Hydrogen Council (水素協議会)」スイス・ダボスにて発足

—13の国際的企業のリーダーが、気候変動の目標達成に向け、
水素利用を推進する新しいグローバル・イニシアチブを設立—

本日、エネルギー、運輸、製造業の世界的なリーディングカンパニー13社で構成する Hydrogen Council(水素協議会)が発足しました。Hydrogen Council は、水素を利用した新エネルギー移行に向けた共同のビジョンと、長期的な目標を提唱するグローバル・イニシアチブ(活動体)です。

世界初の水素に関するグローバル・イニシアチブとして、Hydrogen Council は水素を将来のエネルギー移行に向けたひとつの主要な解であると位置づけています。

水素は様々な特長を有する多様性あるエネルギーです。使用時に CO2 を発生しないクリーンな燃料・エネルギーとして、クリーンで低炭素なエネルギーシステムへの移行に、重要な役割を果たすと期待されています。水素関連の技術と製品は、この数年の間に大きく進化し、次第に市場に投入されつつあります。

当カウンシルでは、政策立案者、ビジネス界、水素を利用する会社、国際組織、市民団体など、多くの主要ステークホルダーと協働し、水素利用の推奨策を示し、共同の目標を達成していくことを目指しています。

今回の発足に関わったメンバーは、水素ならびに燃料電池の開発と商業化に関し、現時点で約 14 億ユーロ/年^{*1}と推定される大掛かりな投資を、更に加速させていくことを確認しました。適切な政策とスキームのもと、主要なステークホルダーが水素を将来のエネルギーミックスのひとつとして捉えることにより、この額はさらに増額する可能性もあります。

^{*1} 2017年1月11日の為替レート換算で約1714億円

ダボスにおける第一回の Hydrogen Council の会合には、様々な製造業・エネルギー会社の13人のCEOならびに会長らが参加しました。これらの企業は、2015年のパリ協定で合意された「(気温上昇を)2°C以下に抑える」という大きな目標の達成を目指し努力しています。

現在、当カウンシルに参加している国際的企業は以下の通りです。

Air Liquide(エア・リキード)、Alstom(アルストム)、Anglo American(アングロ・アメリカン)、BMW Group(BMW グループ)、Daimler(ダイムラー)、Engie(エンジー)、本田技研工業、Hyundai(ヒュンダイ)、川崎重工業、Royal Dutch Shell(ロイヤル・ダッチ・シェル)、Linde Group(リンデグループ)、Total(トタル)、ならびにトヨタ自動車の計13社です。当カウンシルは、地域・業種の異なる2つの共同議長会社により推進され、現在は Air Liquide とトヨタ自動車とその2社です。

Air Liquide 社のブノワ・ポチエ CEO は、「気候変動を抑える 2015 年のパリ協定は、社会を正しい方向に導く大きな一歩ですが、同時にこうした協定内容を現実のものとするためには、具体的な企業行動が必要となります。Hydrogen Council には、製造業・エネルギーの世界的なリーディングカンパニーが参画し、エネルギー移行にあたって、水素が一つの主要な解であると注目されている理由を明らかにしていきます。

Hydrogen Council

このエネルギー移行については発電、家庭向けエネルギーに加えて、モビリティの分野も含まれます。水素を中心に据えてエネルギー移行を果たしていく目標を達成するためには、新しい大規模な戦略を作り上げることが必要です。

しかしながら、こうしたことは当カOUNシルだけではできません。カOUNシル・メンバーの活動に加えて、大規模なインフラ投資計画など、政府のサポートが必要です。

当カOUNシルが本で行った世界のリーダーへの呼びかけは、水素の可能性にコミットしていくことにより、気候変動抑止への目標を共有し、水素を中心としたエコシステムへと発展させていく大きな原動力になると確信しています」とコメントしました。

トヨタ自動車の内山田竹志会長は、「Hydrogen Council は、水素技術とその便益を世界に示しリーダーシップを果たしていきます。当カOUNシルは、協働、協力、相互理解を政府や産業界から、そして何より重要なことですが、一般の方々から得ていくことを目指しています。

当社は、燃料電池車の導入などを通じ、自動車業界の中で、環境ならびに関連技術の進捗を先導する役目を果たしてきました。さらに我々は、水素が運輸分野だけでなく産業界全体、ならびにバリューチェーン全体で、低炭素社会への移行を支えていくポテンシャルがあると認識しています。Hydrogen Council はこの移行を積極的に推進してまいります」と語りました。

川崎重工業は、当カOUNシルの一員として水素の大量利用に必要な技術開発を行い、水素エネルギーの普及を推進していきます。技術開発は、水素製造から輸送、貯蔵、利用までの水素エネルギーサプライチェーン全般にわたり、その製品化に取り組んでいます。

当社は、水素、ヘリウム、天然ガスなどの液化ガスの極低温技術について 50 年以上の歴史を有しており、水素を安全に、安定的に、そして経済的に取り扱い、大量の水素を世の中で利活用できるようにすることを目指します。2020 年には、日豪間の船舶による液化水素の大規模/長距離輸送の実証^{*2}を開始します。

^{*2}H27 年度 NEDO 課題設定型産業技術開発費助成事業

「未利用褐炭由来水素大規模海上輸送サプライチェーン構築実証事業」として技術研究組合 HySTRA を通じて実証。

Hydrogen Council による「How Hydrogen empowers the energy transition(いかに水素は将来エネルギーへの移行を後押しするか)^{*3}」と題するレポートでは、水素の将来的なポテンシャルについてさらに詳しく説明しています。

^{*3} www.hydrogencouncil.com

そのポテンシャルとは、水素にはカOUNシルメンバーのビジョンを実現し、政策担当者の基本的な政策案に関し解決策を提供し、エネルギー移行の課題解決に貢献していくことが出来る、というものです。

エネルギー・製造業の分野のグローバル企業にとって、エネルギー移行をマネジメントする方法や低炭素で持続可能な経済実現に向けて一歩踏み出すことは責任の一環です。

この難しい課題に立ち向かうためには、協働で行動することが必要です。だからこそ、当カOUNシルは、水素がエネルギー移行にもたらす役割の認識のもと、政府や主要なステークホルダーとともに、効果的な実行計画を作り出すことを目指しています。

(ご参考:Hydrogen Council メンバー企業全体では、収入全体では1兆700万ユーロ、世界全体では172万人の社員を有する^{*4}。)

^{*4} 参加企業の 2015-2016 会計年度(financial years 2015 and 2016)の数値に基づく。なお 1 兆 700 万ユーロは、2017 年 1 月 11 日の為替レート換算で約 129 兆 5000 億円。



Hydrogen Council

The Hydrogen Council Members:



水素について

水素は多様で安全なエネルギーであり、発電用、もしくは産業用原料として使われる。また、大規模な貯蔵も可能である。Hydrogen Council のメンバーは、水素の展開と利用にコミットしている。水素は（再生可能な）電気や低炭素の化石燃料から作ることができ、使用の段階ではエミッションを出さない。水素は、高密度の液体もしくは気体の形で貯蔵・輸送でき、また燃料として燃やす、また燃料電池で熱と電力を発生させることができる。この多様性により、今後輸送、製造業、家庭用のエネルギーとして重要な役割を果たすことができる。また、再生可能なエネルギーを貯蔵できるという事でもあることから、エネルギー移行の様々な課題を解決できると期待されている。

PRESS CONTACTS

John Clancy

Senior Advisor, FTI Consulting

+32 498953773

john.clancy@fticonsulting.com

Harriet Barham

Consultant, Strategic Communications, FTI Consulting

+32 474819629

harriet.barham@fticonsulting.com

